

平成 27 年度

「運営に関する計画」

大阪市立昭和中学校

平成 27 年 4 月

大阪市立昭和中学校 平成 27 年度 運営に関する計画・自己評価（総括シート）

1 学校運営の中期目標

現状と課題

- 全国学力・学習状況調査については、平均正答率は全ての教科において全国平均を上回り、平均無解答率は全ての教科において全国平均を下回るなど、一定の成果を達成することができた。一方、家庭における予習・復習などの学習習慣や読書習慣、図書館の活用等に課題を残した。
- 命や人権の大切さや社会のルールについて学ぶ機会を確保するため、道徳教育や教育相談活動のさらなる充実を図る必要がある。
- 全国体力・運動能力、運動習慣等調査における男子の平均記録は、持久走以外の種目において大阪市平均ならびに全国平均を上回っている。また、女子の平均記録は、長座体前屈のみ全国平均を下回っているものの、それ以外の種目において大阪市平均ならびに全国平均を上回っている。望ましい生活習慣や運動習慣を身に付けさせる教育を家庭・地域と連携しながらさらに推進する必要がある。
- 学校教育 I C T 活用事業（平成 25～26 年度）のモデル校として、研究と実践に一定の成果をおさめることができた。全市展開に向けて、平成 27 年度も引き続きモデル校・先進的研究校として公開研究授業や授業公開を行い、さらに研究を継続していく必要がある。

中期目標**【視点 学力の向上】**

- 平成 28 年度の全国学力・学習状況調査における「家で学校の授業の復習をしていますか」の項目について、「している（どちらかといえばしている）」と答える生徒の割合を平成 24 年度より向上させる。（カリキュラム改革関連・学校サポート改革関連）
- 平成 27 年度末の校内アンケートにおける「授業で自分の考えをまとめたり、発表したりすることがある。」の項目において、「ある（どちらかといえば、ある）」と答える生徒の割合を平成 24 年度より向上させる。（カリキュラム改革関連）
- 平成 27 年度末の校内アンケートにおける「学校は子どもに基礎的な学力が身につくように努めている。」の項目において、「努めている（どちらかといえば、努めている）」と答える保護者の割合を平成 24 年度より向上させる。（カリキュラム改革関連）

【視点 道徳心・社会性の育成】

- 平成 28 年度の全国学力・学習状況調査における「将来の夢や目標を持っていますか」の項目について「持っている（どちらかといえば持っている）」と答える生徒の割合を平成 24 年度より向上させる。（カリキュラム改革関連）
- 平成 27 年度末の校内アンケートにおける「命や人権の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある」の項目において「ある（どちらかといえば、ある）」と答える生徒の割合を、平成 24 年度より向上させる。（カリキュラム改革関連）
- 平成 27 年度末の校内アンケートにおける「先生はいじめや校内暴力など私たちが困っていることについて対応してくれる」の項目において「対応してくれる（どちらかといえば対応してくれる）」と答える生徒の割合を平成 24 年度より向上させる。（カリキュラム改革関連）

- 平成 27 年度末の校内アンケートにおける「地震や台風などの場合の対応については、生徒や保護者に行動マニュアルが知らされている」の項目において、「知らされている（どちらかといえば、知らされている）」と答える保護者の割合を、平成 24 年度より向上させる。(カリキュラム改革関連)
- 平成 27 年度末の校内アンケートにおける「保護者や地域の人々といっしょになって学習や作業をすることがある」の項目において「ある（どちらかといえば、ある）」と答える生徒の割合を、平成 24 年度より向上させる。(カリキュラム改革関連・ガバナンス改革関連)
- 平成 27 年度末の校内アンケートにおける「私は部活動に積極的に取り組んでいる」の項目について、「取り組んでいる（どちらかといえば取り組んでいる）」と答える生徒の割合を、平成 24 年度より向上させる。(カリキュラム改革関連)

【視点 健康・体力の保持増進】

- 平成 28 年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査における女子ボール投げの平均の記録を、全国平均以上にする。(カリキュラム改革関連)
- 平成 27 年度末の校内アンケートにおいて栄養バランスのとれた昼食（家庭弁当や学校給食）を取る生徒の割合を 100% にする。(カリキュラム改革関連)
- 平成 27 年度末の自己評価において、「保健・健康に関して家庭や地域の保健関係機関との連携を図っている」の項目について「図っている（どちらかといえば図っている）」と答える教職員の割合を、平成 24 年度より向上させる。(ガバナンス改革関連)

【視点 教職員の I C T 活用能力の向上】

- 平成 27 年度末の「文部科学省 教育の情報化の実態等に関する調査」における「授業中に I C T を活用して指導する能力」の項目において、「できる（わりにできる・ややできる）」と答える教員の割合を 100% にする。(マネジメント改革関連)
- 平成 27 年度末の「文部科学省 教育の情報化の実態等に関する調査」における「生徒に I C T 活用を指導する能力」の項目において、「できる（わりにできる・ややできる）」と答える教員の割合を 100% にする。(マネジメント改革関連)
- 平成 27 年度末の「文部科学省 教育の情報化の実態等に関する調査」における「校務に I C T を活用する能力」の項目において、「できる（わりにできる・ややできる）」と答える教職員の割合を 100% にする。(マネジメント改革関連)

2 中期目標の達成に向けた年度目標

【視点 学力の向上】

- 平成 27 年度の全国学力・学習状況調査における「学校の授業時間以外に、普段、1 日当たりどれくらいの時間勉強をしますか」の項目について、「2 時間以上」と答える生徒の割合を 50 % 以上、かつ「1 時間以上」と答える生徒の割合を 80 % 以上にする。
(カリキュラム改革関連・学校サポート改革関連)
- 平成 27 年度「指導方法の工夫改善定数を活用した小学校における専科指導の充実」に係る児童アンケート(5 月・12 月実施)の各項目において、「あてはまる(どちらかといえばあてはまる)」と答える生徒の割合を、5 月実施分より 12 月実施分において向上させる。
- 平成 27 年度末の校内アンケートにおける「授業で自分の考えをまとめたり、発表したりすることがある。」の項目において、「ある(どちらかといえば、ある)」と答える生徒の割合を 80% 以上にする。(カリキュラム改革関連)
- 平成 27 年度末の校内アンケートにおける「学校は子どもに基礎的な学力が身につくように努めている。」の項目において、「努めている(どちらかといえば、努めている)」と答える保護者の割合を 80% 以上にする。(カリキュラム改革関連)

【視点 道徳心・社会性の育成】

- 平成 27 年度の全国学力・学習状況調査における「将来の夢や目標を持っていますか」の項目について「持っている(どちらかといえば持っている)」と答える生徒の割合を全国平均以上にする。(カリキュラム改革関連)
- 平成 27 年度末の校内アンケートにおける「命や人権の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある」の項目において「ある(どちらかといえば、ある)」と答える生徒の割合を、85% 以上にする。(カリキュラム改革関連)
- 平成 27 年度末の校内アンケートにおける「先生はいじめや校内暴力など私たちが困っていることについて対応してくれる」の項目において「対応してくれる(どちらかといえば対応してくれる)」と答える生徒の割合を 80% 以上にする。(カリキュラム改革関連)
- 平成 27 年度末の校内アンケートにおける「地震や台風などの場合の対応については、生徒や保護者に行動マニュアルが知らされている」の項目において、「知らされている(どちらかといえば、知らされている)」と答える保護者の割合を、85% 以上にする。(カリキュラム改革関連)
- 平成 27 年度末の校内アンケートにおける「保護者や地域の人々といっしょになって学習や作業をすることがある」の項目において「ある(どちらかといえば、ある)」と答える生徒の割合を、50% 以上にする。(カリキュラム改革関連・ガバナンス改革関連)
- 平成 27 年度末の校内アンケートにおける「私は部活動に積極的に取り組んでいる」の項目について、「取り組んでいる(どちらかといえば取り組んでいる)」と答える生徒の割合を、80% 以上にする。(カリキュラム改革関連)

【視点 健康・体力の保持増進】

- 平成 27 年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査において、体力合計点が本市平均ならびに全国平均を上回るようにする。(カリキュラム改革関連)
- 平成 27 年度末の校内アンケートにおいて栄養バランスのとれた昼食(家庭弁当や学校給食)を取る生徒の割合を 90% 以上にする。(カリキュラム改革関連)
- 平成 27 年度末の自己評価において、「保健・健康に関して家庭や地域の保健関係機関との連携を図っている」の項目について「図っている(どちらかといえば図っている)」と答える教職員の割合を、100% にする。(ガバナンス改革関連)

【視点 教職員のＩＣＴ活用能力の向上】

- 平成 27 年度末の「文部科学省 教育の情報化の実態等に関する調査」における「授業中にＩＣＴを活用して指導する能力」の項目において、「できる（わりにできる・ややできる）」と答える教員の割合を 100% にする。（マネジメント改革関連）
- 平成 27 年度末の「文部科学省 教育の情報化の実態等に関する調査」における「生徒にＩＣＴ 活用を指導する能力」の項目において、「できる（わりにできる・ややできる）」と答える教員の割合を 100% 以上にする。（マネジメント改革関連）
- 平成 27 年度末の「文部科学省 教育の情報化の実態等に関する調査」における「校務にＩＣＴ を活用する能力」の項目において、「できる（わりにできる・ややできる）」と答える教職員の割合を 100% 以上にする。（マネジメント改革関連）

3 本年度の自己評価結果の総括

(様式2)

大阪市立昭和中学校 平成27年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【視点 学力の向上】	
○平成27年度の全国学力・学習状況調査における「学校の授業時間以外に、普段、1日当たりどれくらいの時間勉強をしますか」の項目について、「2時間以上」と答える生徒の割合を50%以上、かつ「1時間以上」と答える生徒の割合を80%以上にする。 (カリキュラム改革関連・学校サポート改革関連)	
○平成27年度「指導方法の工夫改善定数を活用した小学校における専科指導の充実」に係る児童アンケート(5月・12月実施)の各項目において、「あてはまる(どちらかといえばあてはまる)」と答える生徒の割合を、5月実施分より12月実施分において向上させる。	
○平成27年度末の校内アンケートにおける「授業で自分の考えをまとめたり、発表したりすることがある。」の項目において、「ある(どちらかといえば、ある)」と答える生徒の割合を80%以上にする。(カリキュラム改革関連)	
○平成27年度末の校内アンケートにおける「学校は子どもに基礎的な学力が身につくよう努めている。」の項目において、「努めている(どちらかといえば、努めている)」と答える保護者の割合を80%以上にする。(カリキュラム改革関連)	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【自主学習習慣の確立】 放課後等に自主学習時間を設定し、地域コーディネーターやボランティアと協力して、生徒の自主学習を支援する。(カリキュラム改革関連・学校サポート改革関連)	
指標・定期テスト前に、自主学習会をそれぞれ3日以上開催する。 ・土曜学習会を学期に1回以上、また夏季休業期間中に自主学習会を3日以上開催する。	
取組内容②【思考力・判断力・表現力の育成】 思考力・判断力・表現力の育成に向けて、言語活動を通して指導と評価の一体化を推進する。(カリキュラム改革関連)	
指標 全教科において、思考力・判断力・表現力を育成する取組を、計画通りに実施する。	
取組内容③【習熟度別少人数授業の実施】 生徒の学習到達度を把握し、生徒にわかる喜びを味わわせ、学ぶ意欲を育てる学習など個に応じた指導を工夫する。 (カリキュラム改革関連)	
指標 対象教科において、習熟度別少人数授業を年間総授業時数の33%以上設定する。	
取組内容④【小中一貫した教育の推進】 9年間を見通した教育課程を編成し、中1ギャップの解消に努める。 (カリキュラム改革関連)	
指標 校区小学校高学年において、年間を通して、理科を中心に中学校の専科授業を体験させる。	

取組内容⑤【特別支援教育の充実】

「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」をもとに、自立と社会参加に向けて、個に応じた指導を充実する。(カリキュラム改革関連)

指標 月に1回は、個に応じた指導について共通理解を図るとともに、年に1回以上指導方法に関わる校内研修会を開催する。

取組内容⑥【読書活動の推進】

読書習慣を身につけさせ、本を読む楽しさを味わわせる。(カリキュラム改革関連)

指標 毎週2回以上、朝の読書活動を行うとともに、年間を通して、昼休みに学校図書館を開館する。

取組内容⑦【授業研究を伴う校内研修の充実】

「学び続ける教員サポート事業」に則り、すべての対象教員が研究授業を実施し、指導力の向上に取り組む。(カリキュラム改革関連)

指標 学期に1回以上実施する。

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

次年度への改善点

(様式 2)

大阪市立昭和中学校 平成 27 年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【視点 道徳心・社会性の育成】	
○平成 27 年度の全国学力・学習状況調査における「将来の夢や目標を持っていますか」の項目について「持っている（どちらかといえば持っている）」と答える生徒の割合を全国平均以上にする。（カリキュラム改革関連）	
○平成 27 年度末の校内アンケートにおける「命や人権の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある」の項目において「ある（どちらかといえば、ある）」と答える生徒の割合を、85%以上にする。（カリキュラム改革関連）	
○平成 27 年度末の校内アンケートにおける「先生はいじめや校内暴力など私たちが困っていることについて対応してくれる」の項目において「対応してくれる（どちらかといえば対応してくれる）」と答える生徒の割合を 80%以上にする。（カリキュラム改革関連）	
○平成 27 年度末の校内アンケートにおける「地震や台風などの場合の対応については、生徒や保護者に行動マニュアルが知らされている」の項目において、「知らされている（どちらかといえば、知らされている）」と答える保護者の割合を、85%以上にする。（カリキュラム改革関連）	
○平成 27 年度末の校内アンケートにおける「保護者や地域の人々といっしょになって学習や作業をすることがある」の項目において「ある（どちらかといえば、ある）」と答える生徒の割合を、50%以上にする。（カリキュラム改革関連・ガバナンス改革関連）	
○平成 27 年度末の校内アンケートにおける「私は部活動に積極的に取り組んでいる」の項目について、「取り組んでいる（どちらかといえば取り組んでいる）」と答える生徒の割合を、80%以上にする。（カリキュラム改革関連）	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【道徳教育の充実】 人間としての生き方を考えさせる道徳教育を、道徳教育推進教師を中心に、全教職員の共通理解のもとで推進する。（カリキュラム改革関連）	
指標 全教員が、1年に1回以上は道徳の授業実践を行う。	
取組内容②【道徳教育の充実】 生徒の内面に根ざした道徳性を育成するため、豊かな体験活動を推進する。（カリキュラム改革関連）	
指標 各学年を対象に、体験学習を年に1回以上実施する。	
取組内容③【生命を尊ぶ教育の充実】 命あるものを愛しむ心を育てるため、学校元気アップ事業を活用し、体験活動を推進する。（カリキュラム改革関連・学校サポート改革関連）	

指標 生徒を中心に、地域・保護者・学校が協力して、子育て体験を実施する。	
取組内容④【キャリア教育の充実】 社会的・職業的自立に向け、子どもの勤労観・職業観を育てるため、職業講話や職業体験学習など、子どもの発達段階に応じた体系的・系統的なキャリア教育を推進する。(カリキュラム改革関連)	
指標 全ての学年において、年に1回以上、キャリア教育を実施する。	
取組内容⑤【いじめへの対応】 「学校いじめ防止基本方針」に則り、すべての教職員が「いじめ」を見抜く鋭敏な感覚を養い、事案の未然防止および早期解決に努める。(カリキュラム改革関連)	
指標 月に1回以上、いじめ防止に関する委員会を開催する。	
取組内容⑥【防災教育の推進】 災害発生時に支援者となる視点から、安全で安心な社会づくりに貢献する態度を育成する。(カリキュラム改革関連・ガバナンス改革関連)	
指標 地域関係諸機関と連携した防災教育を、年に1回以上実施する。	
取組内容⑦【美化・環境整備】 生徒・保護者・教職員が、潤いのある校内環境を整えることを通して、情操豊かな生徒を育成する。(カリキュラム改革関連)	
指標 生徒・保護者・教職員による校内緑化活動を、年に1回以上実施する。	
取組内容⑧【部活動の充実】 部活動を通して、役割と責任を自覚し、協力し合える態度を身につけさせるとともに、豊かな感性や情操をはぐくむ教育を推進する。(カリキュラム改革関連)	
指標 部活動入部率を85%以上にする。	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
次年度への改善点

(様式 2)

大阪市立昭和中学校 平成 27 年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【視点 健康・体力の保持増進】</p> <p>○平成 27 年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査において、体力合計点が本市平均ならびに全国平均を上回るようにする。(カリキュラム改革関連)</p> <p>○平成 27 年度末の校内アンケートにおいて栄養バランスのとれた昼食(家庭弁当や学校給食)を取る生徒の割合を 90%以上にする。(カリキュラム改革関連)</p> <p>○平成 27 年度末の自己評価において、「保健・健康に関して家庭や地域の保健機関との連携を図っている」の項目について「図っている(どちらかといえば図っている)」と答える教職員の割合を、100%にする。(ガバナンス改革関連)</p>	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【体力向上への支援】</p> <p>望ましい運動習慣を身につけ、基礎体力の向上を図るようにする。(カリキュラム改革関連)</p>	
<p>指標 毎回の授業において、腕立て・腹筋・スクワットなどの補強運動を行う。</p>	
<p>取組内容②【食育】</p> <p>成長期にある生徒が、食に関する正しい知識と望ましい食習慣を身につけることができるよう食育を推進する。(カリキュラム改革関連)</p>	
<p>指標 月に 1 回以上、食育通信を配付する。</p>	
<p>取組内容③【健康な生活習慣の確立】</p> <p>心身の健康に興味を持ち、自ら管理できる能力をはぐくむ教育を推進する。(カリキュラム改革関連)</p>	
<p>指標 年に 10 回以上、保健だよりを配付する。</p>	
<p>取組内容④【健康な生活習慣の確立】</p> <p>家庭や地域とともに、子どもの健全育成を図る取組を推進する。(カリキュラム改革関連・ガバナンス改革関連)</p>	
<p>指標 関係機関・保護者とともに薬物乱用防止教室を年に 1 回以上開催する。</p>	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
次年度への改善点

(様式2)

大阪市立昭和中学校 平成27年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【視点 教職員のICT活用能力の向上】 ○平成27年度末の「文部科学省 教育の情報化の実態等に関する調査」における「授業中にICTを活用して指導する能力」の項目において、「できる（わりにできる・ややできる）」と答える教員の割合を100%にする。（マネジメント改革関連）	
○平成27年度末の「文部科学省 教育の情報化の実態等に関する調査」における「生徒にICT活用を指導する能力」の項目において、「できる（わりにできる・ややできる）」と答える教員の割合を100%にする。（マネジメント改革関連）	
○平成27年度末の「文部科学省 教育の情報化の実態等に関する調査」における「校務にICTを活用する能力」の項目において、「できる（わりにできる・ややできる）」と答える教職員の割合を100%にする。（マネジメント改革関連）	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【各種研究・研修の充実】 教職員のICT活用能力の向上のため、学校教育ICT支援員・授業づくり指導員の協力のもと、校内研修を充実させる。（マネジメント改革関連）	
指標 全教員が、教材研究と併行してICT機器の使用方法を習得するなどの校内研修を年間10回以上行う。	
取組内容②【公開授業の実施】 大阪市スタンダードモデルの確立に向け、授業を積極的に公開する。 (マネジメント改革関連)	
指標 全教員が、ICTを活用した公開授業に取り組む。	
取組内容③【ICTを活用した教育の推進】 生徒に対しICT活用を指導する能力を高める。（マネジメント改革関連）	
指標 ICTを活用し、生徒が主体的に発表する場を、複数の教科において設ける。	
取組内容④【組織運営】 校務の効率化・省力化を進め、教職員の負担の軽減を図る。（マネジメント改革関連）	
指標 校務にICTを活用するための研修を、学期に1回以上実施する。	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
次年度への改善点

平成27年度 学校関係者評価報告書

大阪市立昭和中学校 学校協議会

1 総括についての評価

2 年度目標ごとの評価

年度目標：	
年度目標：	
	• • • •

3 今後の学校運営についての意見

児童生徒等の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査の結果から明らかになった現状

平成 26 年度の自校の取組の成果と課題

区分	成果と課題
① 暴力行為の状況等	平成 26 年度は暴力的行為が 7 件発生した。家庭・地域・関係諸機関と連携しながら、生活指導部を中心に、全教職員が問題行動に機敏かつ組織的に対応できる体制の維持に努め、生活指導における情報交換を週に 1 回、学年主任から報告を行うなど例年以上に密に行なった。そのような中で暴力的行為は平成 25 年度より増加となった。生徒たちが自分の感情をコントロールできるようになること、他者を大切に思う心を育成するような取り組みが早急に必要とされる。生徒の心を成長させる道徳教育や人権学習をより一層、重視していきたい。本校の小規模校としてのメリットとして教職員による当該生徒への指導を学校総体として展開するようにしていきたい。
② いじめの状況等	平成 26 年度は、いじめ事案が 5 件発生したが、教職員による当該生徒への指導を経て現在、収束している。しかし、認知したものについては今後も常に気を配り見守っていきたい。いじめはどの学校でも起こる可能性があるという自覚のもと、全教職員が、いじめを見抜く鋭敏な感覚を身につけることができるよう、指導力の向上に努める。
③ 小・中学校における不登校の状況等	欠席しがちな生徒については、校外学習や学校行事、定期テスト等の機会をとらえて、担任を中心に丁寧に働きかけ、登校を促してきた。昨年度途中より、これまでの体制をより強化し、欠席しがちな生徒の対応を学校総体で対応していくようにした。管理職や生活指導部、部活動顧問など当該学年の教員でなかったとしても家庭訪問に行くように今年度、定着を図っていきたい。また全く登校できていない生徒については、子ども相談センターや区の子育て支援室と連携し、家族関係のあり方の改善も視野に入れた指導と支援に注力している。
④ 高等学校における長期欠席の状況等	
① 高等学校における中途退学の状況等	